



飼料用トウモロコシへの牛の未熟たい肥および完熟たい肥を利用時の留意点

【1 成果概要】

たい肥化の有無により、飼料用トウモロコシによる窒素利用率は大きく異なります。

- (1) 畜産研究所の牛の未熟たい肥中窒素成分の利用率は約 33%、完熟たい肥は約 4 %です
- (2) 未熟たい肥は増施によりトウモロコシの乾物収量および粗たんぱく質含有率を上昇させ、窒素肥料としての効果が期待できます。これにオガクズを混合して作成した完熟たい肥は増施してもトウモロコシの乾物収量および粗たんぱく質含有率は上昇せず、窒素肥料としての効果はあまり期待できません。

* 化学肥料施用区と同等の収量を得るためには、

未熟牛厩肥および完熟たい肥の窒素利用率を考えて化学肥料を併用する必要があります。

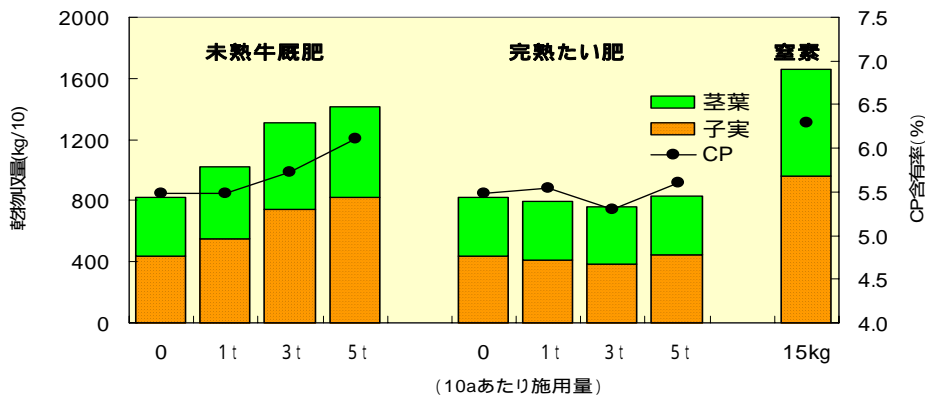


図1 施用量と飼料用トウモロコシの乾物収量及びCP含有率

【2 効果】

施用する牛の未熟たい肥や完熟たい肥中の窒素利用率を考慮することで化学肥料の軽減が図れます。

【3 施用する時に注意していただきたいこと】

- (1) たい肥の施用量は「牧草・飼料作物生産利用指針」(平成18年 岩手県)の基準を参考にしましょう。
- (2) 未熟たい肥は雑草種子の死滅が期待できないため、これを利用する場合には雑草防除を行いましょう。
- (3) 未熟たい肥および完熟たい肥を施用した後は速やかに土壌と混和しましょう。
- (4) 施用するものは成分分析をしましょう。
- (5) 牛の未熟たい肥は、搾乳牛と肥育牛の糞を屋根付堆肥舎で約1ヶ月切返しなしで保管したものです。
- (6) 牛の完熟たい肥は、(5)を畜産研究所内の大型円形発酵装置でオガクズを(約25%)混合して約2週間攪拌した後に屋根付たい肥舎で1ヶ月に1度切返ししながら約3ヶ月堆積したものです。

【4 適応対象】

対象地域および対象者 : 岩手県内の飼料用トウモロコシ栽培農家